

創作音楽劇 琴の鳴る浜

むかしむかしそのむかし

いわみのくにはまじのはま

へいけのひめがながれつき

はまのりょうしにたすけられ

みやここいしとことひきたまう

平成23年 **3/13** (日)
大田市民会館大ホール
開場 13:30・開演 14:00

〔入場料〕全席自由

- 前売り 一般1,000円・高校生以下500円
- 当日 一般1,200円・高校生以下700円

〔プレイガイド〕

- 大田市民会館 ●サンレディー大田 ●大田市立中央公民館
- パル2Fインフォメーション ●石橋文具店 ●ゆう・ゆう館(温泉津)
- ビーバード(仁摩)

主催：「琴の鳴る浜」実行委員会

(大田市文化協会・劇研「空」・大田市音楽協会・合原社中・峰友会
馬路社会教育振興会・琴ヶ浜盆踊り保存会・ジュニアミュージカル風花
仁摩サンドミュージアム・大田市民会館)

後援：大田市・大田市教育委員会・NHK松江放送局・山陰中央新報社

協力：石見銀山テレビ放送株式会社

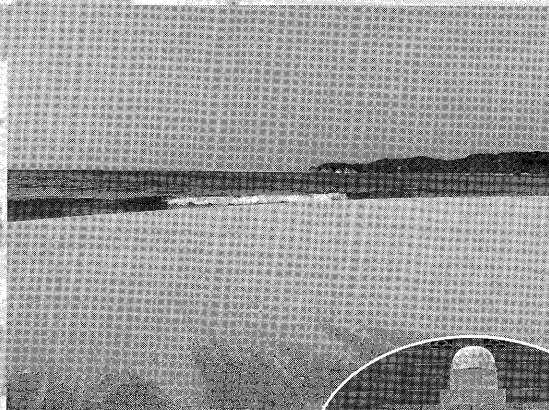
お問い合わせ

大田市民会館 TEL0854-82-0938
〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ128

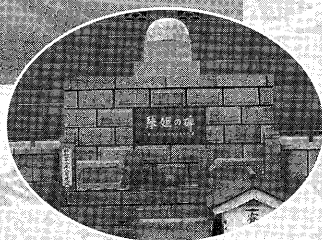
脚本：洲浜昌三
作曲：長坂行博

琴：銘「杜鵑」／石見銀山・城上神社蔵(大田市大森町)

ふるさと大田市の伝説を 音楽と劇で 舞台化!



琴ヶ浜

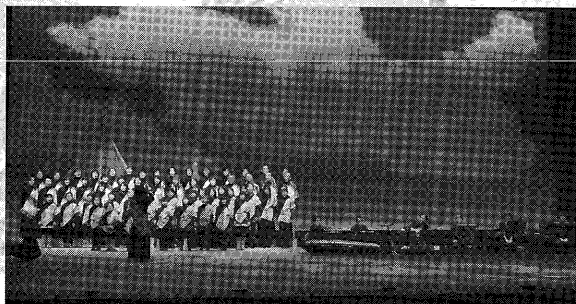


琴姫の碑

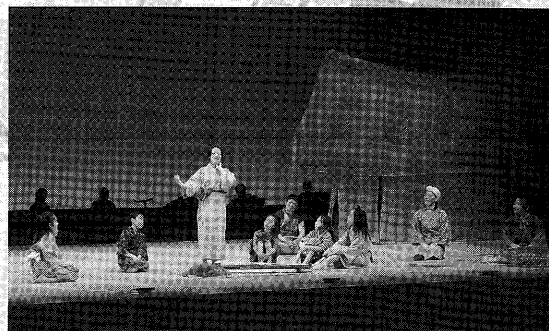
「琴を抱いた平家の姫が船で馬路の浜へ流れ着き、村人に大切にされた。姫は琴を弾いて村人をなぐさめた。」仁摩町馬路に伝わる伝説です。壇ノ浦の源平合戦で平家が滅びたのは800年も前のことです。それが今も語り継がれているのは、この伝説に強い生命力があるからでしょう。その魅力にひかれて琴ヶ浜を訪ねてくる人もたくさんいます。美しい砂浜やその風景とともにいつまでも伝えていきたいふるさと大田市の宝です。

劇 合唱 ソロ 生演奏 ~ 舞台の感動を再び!

「平家、琴、姫、鳴き砂」一魅力的なこの組み合わせから生まれたイメージを物語にして、音楽劇として上演したのは1年前の3月でした。大勢のお客様に来ていただき、熱いご声援をいただきました。アンケートには再演希望が多くあり、放映された石見銀山テレビを見た人たちから「生の舞台を観たい」という声も寄せられました。実行委員会では「脚本に手を加えて更にレベルアップした舞台にして」再演することに決まりました。



テレビや映画と違って舞台の素晴らしさは「生の感動を舞台と客席が同時に共有できる」ことです。小学生や高校生を含め総勢100人近い大田市民が協力して作る舞台です。合唱や子どもの歌、ソロ、琴や尺八、ヴァイオリン、チェロなど生の演奏はきっと楽しんでいただけるでしょう。劇では笑いや感動を共にしていただけたらと思います。どうぞご来場ください。



〈脚本〉 洲浜昌三

〈音楽〉 長坂行博

〈劇研「空」出演キャスト〉

| | | | |
|------|------|-------|------|
| 森山ゆい | 前田美佳 | 松本領太 | 堤 浩隆 |
| 三井 守 | 山本和之 | 松本由香里 | 若狭雅子 |
| 吉川礼子 | 田中和子 | 田中安夫 | 山尾一郎 |
| 渡利章子 | 石橋昇悟 | | |

〈ジュニアミュージカル風花〉

| | | | |
|------|------|-------|------|
| 松原瑠南 | 松原侑璃 | 渡邊このみ | 新倉彩乃 |
| 和田彩里 | 和田春妃 | 岸 美波 | |

〈盆踊り〉

琴ヶ浜盆踊り保存会の皆さん
(馬路地区小学生)

| | | | |
|-------|------|-------|------|
| 松浦菜々海 | 村本玲那 | 田村真知子 | 松浦磨耶 |
| 松浦水祈 | 田村直子 | 船原岳人 | 松浦光瑠 |
| 松浦礼於奈 | | | |

〈コーラス〉

- ・大田少年少女合唱団
- ・大田高校合唱部
- ・フレンズ彩
- ・サウンド・コラージュ

〈演奏〉

| | |
|---------|------|
| 琴 | 合原三令 |
| 尺 八 | 森山重富 |
| ギター・チェロ | 長坂行博 |
| ヴァイオリン | 長坂拓己 |
| キーボード | 長坂玲子 |
| シンセサイザー | 長坂響子 |